

公益社団法人 横浜市幼稚園協会発行  
〒221-0055  
横浜市神奈川区大野町1-25  
横浜ポートサイドプレイス アネックス5F  
電話 045 (534) 8708  
http://www.kids-yokohama.or.jp  
編集 横浜市幼稚園協会広報部  
発行者 木元 茂  
印刷所 合資会社横浜大気堂

# 協会報 浜私幼

教職員版

No.257

- ▼平成26年度横浜市幼稚園大会開催
- ▼男性教諭奮闘記
- ▼第1回教員研修会報告
- ▼絵本の散歩道



## 平成26年度横浜市幼稚園大会開催

# ふみ出そう 新たな一歩 子どもの笑顔と未来のために



柏崎 誠横浜市副市長よりお祝いの挨拶



木元 茂会長挨拶

平成26年度横浜市幼稚園大会が、6月25日(水)に横浜市文化体育館で、多数のご来賓の皆さまご臨席のもと開催された。当日は傘を手放せない天候にもかかわらず、早い時間から参加者が会場前に集まり、開会時には大勢の幼稚園教職員や保護者、園児で会場はいっぱいとなった。定刻午後3時、真紅の緞帳が上がり開幕した。

舞台中央の金屏風の前には横浜市長様、横浜市会議長様より贈られたお祝いの生花がそれぞれ飾られ、壇上には、向って右側に横浜市副市長、横浜市会議長、市会各党団長、行政関係者、養成校の代表者など多数の来賓の方々が着席され、左側には横浜市幼稚園協会会長をはじめ協会関係者が控えて、大会の進行を見守った。

まず羽田哲副会長が本年度のテーマ「ふみ出そう 新たな一歩 子どもの笑顔と未来のために」にふれ、これが来年度からの新制度移行のことも含めて決められたものであり、皆さんの力を集結してこの局面を乗り切りたいと話し、開会を宣言した。この後、参加者全員が起立して国歌、横浜市歌を斉唱し、式典がスタートした。

最初に挨拶に立った木元茂会長は、まず大会開催の喜びと感謝の気持ちを表し、続いて永年勤続表彰受賞者へお祝いの言葉を述べた後、「認定こども園」制度に触れ、「幼稚園協会各支部でも保護者に向けて丁寧に説明する必要がある。また各園の進路選択の時期が迫っているが、自園を取り巻く地域の状況をじっくり考え

自園の方向を決めて欲しい。地域の小規模保育施設との連携も多くなる。新制度では教育・保育の質の維持向上も重視されているが、今日表彰を受けた先生方がそれに大いに貢献することは間違いない」と話した。さらに、「受賞者の皆さんが今日のおめでたい日を迎えられたのは、周囲の支えによってであり、これからは皆さんが周りの人を幸せにするよう働いて欲しい。江戸時代、『働く』という言葉は『傍を楽にする』という意味も含まれた。ベテランの先生方の気配りは各園の豊かな人間関係と充実した保育活動を産み出す潤滑油となる。なお一層ご活躍いただきたい」と話した。

続いて父母の会連合会杉本周子会長が挨拶に立ち、受賞者へお祝いの言葉に続き、自身の体験に基づいて



杉本周子父母の会連合会会長の挨拶



佐藤祐文横浜市議会議長よりお祝いの挨拶



鈴木知佐父母の会連合会副会長による大会宣言

幼稚園生活がかけがえのない時間であることを述べた。そして今年の幼稚園大会のテーマについて、「私達大人が何ができるのか今一度考えて、それぞれ皆さんがいろいろな一歩を踏み出していければいい」と話し、さらに本年度の父母の会連合会の活動として、就園奨励補助金制度の拡充や父母セミナーの開催などに取り組んで行くことと述べるとともに、「とにかく前向きに、子どもをただただ愛すること、子育てを楽しむことを根底に活動して行きたい」と話した。

この後、教職員の方々の永年勤続表彰が行われた。まず勤続20年、15年、10年、5年の順に教職員が登壇し、木元茂会長からそれぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。続いて、勤続40年、35年、30年、25年の節目を迎えた教職員の方々の表彰が行われ、それぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。今年は総勢420名の教職員が長年幼児教育に貢献した功績をたたえ表彰された。

さらに勤続20年、15年の教職員の方々に対しては横浜市長表彰が行われ、柏崎誠横浜市副市長から代表者に表彰状と記念品が授与された。

次に、来賓の方々からお祝いの言葉をいただいた。

まず、柏崎誠横浜市副市長が挨拶に立ち、永年勤続表彰受賞の先生方へ「長きにわたり、子どもたち一人ひとりに寄り添い、人格形成の礎となる幼児教育の実践に力を尽くしてこられました。改め深く敬意を表します」とお祝いの言葉を述べられた。そして「皆様が実践なさっている質の高い幼児教育を今後さらに発展させ、子ども達の健やかな育ちを一緒に支えていただきたい」とお話しになり、続いて「預かり保育事業参加への感謝のお言葉があった。さらに子ども・子育て新制度について、「横浜の子どもたちの健やかな育ちと学びのため、幼稚園と一体となってこの制度を推進して行きたい」と述べられた。

続いて、挨拶された佐藤祐文横浜市議会議長は受賞者への祝辞に続き、「横浜の幼児教育はまさに私立の幼稚園によって支えられている。長きにわたり熱心に幼児教育に取り組まれて来た皆様には引き続きその情熱と経験を存分に発揮し、次代を担う子ども達の育成にご尽力いただきたい。横浜市会としても皆様のご意見を伺

いながら、精一杯支援させていただきたい」と述べられた。

そして、来賓紹介が行われた後、平成25年度父母の会連合会役員の方々へ感謝状の贈呈が行われ、役員5名を代表して古谷みずほ前父母の会連合会会長に木元茂会長から感謝状が手渡された。

続いて、横浜市幼稚園父母の会連合会鈴木知佐副会長から、「ふみ出そう 新たな一歩 子どもの笑顔と未来のために」をテーマとした大会宣言案が読み上げられ、満場一致で大会宣言が採択された。そして、この大会宣言は、後日横浜市及び横浜市議会に届けられることになった。

最後に、永年勤続表彰を受けた教職員を代表して高本寿美先生が、「多くの人々の支えがあってここまでやって来られた。環境の変化の著しい今だからこそ、未来を担う子どもたちに関わる仕事という誇りを持ち続けたい」と謝辞を述べた。

以上で式典はすべて終了し、参加者全員で幼稚園讃歌を斉唱した後、山崎和子副会長が閉会の辞を述べて、午後4時40分に横浜市幼稚園大会を閉幕した。



高本寿美先生より謝辞

# 男性教諭奮闘記

岩崎学園附属磯子幼稚園 渡辺 堯宏

私は今の幼稚園に働くと同時に、北海道から横浜に引っ越してきました。右も左もわからない土地で、働くことになりましたが、今は日々楽しく過ごせています。

私がいまの幼稚園に入ったとき、男性教諭は私一人でした。

初めは、一生懸命仕事を覚えて環境に慣れるのに精一杯でした。しかし、少しずつ女性社会の中で歓待されていないのではないかと考えるようになっていきました。保育に対するささいな疑問への質問から幾度となくぶつかりましたし、分かってもらえないと感じたことも沢山ありました。2年目が過ぎ、3年目を迎えようとした頃、今後の去就に気持ちが揺らいでいる時に、次年度の新規採用者に男性教諭がいるのを知りました。そこで、新しく入ってくる後輩の為に、「見学に来たときには男性教諭がいたのにいざ入ってみたいらない」という先輩としての裏切りにならないようにと踏みとどまりました。

今、世の中の流れとして、男性幼稚園教諭が必要とされてきています。増えているのも事実です。ただ、現状が女性中心の社会ですから、まず女性と同じことが最低限できて、さらにプラスアルファでないと、認めてもらうのは難しいと思っています。

保護者の目線も、男性教諭はマイナスからのスタートである

と思っています。子どもは大人の男の人には慣れていない子も多いです。また、特に女の子を持つ親としては、男性というだけで、様々な不安要素もあるのは確かです。それを一つひとつ払拭していくために日ごろから、保護者とは積極的に子どもの話をし、とにかく安心してもらえるように努めてきました。子どもたちは、多少保育で失敗しても、普段、笑顔で遊んでくれる先生であれば好きになってくれますが、保護者は、大人としての部分をすごく見ているので、そこは絶対にミスしないようにやってきました。そうすることで、保護者の目線も変わってきましたし、自分への安心を勝ち取ることで、自分の思いや、保育も認めてもらえるようになり、日々の保育も楽しく、参観日も緊張することなく保育をできるようになりました。

担任として持っていた年長児を小学校に送り出した年、「幼稚園生活最後の1年、渡辺先生が担任で良かった。」という保護者からの沢山の言葉を頂きました。こうした言葉は今もこの仕事を続ける大きな力となっています。

3年目から、少しずつ自分がやりたいと考えていたことを、形にできるようになってきました。例えば、最近流行の「イクメン」に活躍してもらおうとパパ会を発足させたことはその1つです。

今はまだ飲み会中心のパパ会ですが、今後はこれを足掛かりに新しい事へ挑戦していきたいと思っています。私は過去に、野外教育をやりたいと思い、勉強していただきましたので、その経験を幼稚園でどうしたら提供できるかを考えているところです。

今年はず園に男性教諭も増えました。それはそれで、先輩として後輩に伝える難しさを感じていますが、男性だからできることを一緒に考えていき、男性教諭が幼稚園にいて良かったと思えるようにしていきたいと思っています。それはまだまだ数少ない男性幼稚園教諭の評価も上げることにつながっていくと思っています。



## 第1回 教員研修会報告

平成26年5月21日開催

### 第1分科会

◆ テーマ: **どのように絵本が生まれるか**

◆ 講師: 福音館書店こどものとも第一編集部編集長 **関根 里江先生**

◆ 会場: 西公会堂

第1分科会では、こどものとも編集長であり、子育ても両立されている関根里江先生から、私たち保育者に純粋に絵本を楽しんでもらいたいという思いで、子ども達の成長に必要な栄養素がたっぷり入ったロングセラー絵本を読み聞かせを交えて紹介していただき、その絵本がどのように誕生したのかをお話していただいた。

『はじめてのおつかい』や関根先生が実際に担当した『ひとりでおとまり』は、子どもの日常を扱った普遍的なテーマであるが、作者の実体験から絵本が書かれていてリアリティがあること、読み手（聞き手）と主人公が同化した目線で絵の構図が描かれていることなどによって、読者が主人公の気持ちになって体験するように絵本を楽しめる工夫がされていることを知った。また、関根先生は就学前までの時期を

“黄金時代”と呼び、子ども達が絵本の読み聞かせを実際の体験のように楽しめる時期だという。この“黄金時代”の子ども達が主人公になりきって楽しむことができるからこそ世代を超えてロングセラー絵本と呼ばれていると考えられる。編集に携わる立場として、現代の子ども達にそのような絵本にたくさん出会い、楽しんでもらいたいという関根先生の思いも伺うことができた。

一冊の絵本を作るのに始めから完成まで2、3年をかけ、文章の話し合いから1ページ1ページの絵の構図に至るまで細かい気を配っていることも分かった。身近な絵本に子ども達が楽しむためにどのような工夫がされているのか注目しながら絵本を楽しみたいと思った。

皆様もロングセラー絵本を読んでみてはいかがでしょうか？

(峯岡幼稚園 高田 佳奈)



### 第2分科会

◆ テーマ: **おしゃべりあそびうたへの招待状**

◆ 講師: 遊び歌作家、社会福祉法人諏訪保育園園長 **島本 一男先生**

◆ 会場: 鶴見公会堂

声掛け歌「空をとんでる」から始まった研修会では、保育園の園長先生でもある島本一男先生、そして湯浅とんぼさんと杉山としひろさんを講師としてお招きし、優しさの中に面白さの

あるあそび歌を沢山紹介していただいた。保育のふとした場面で取り入れることができ、簡単でアレンジができたり、明日からすぐに使えるようなものばかりだった。また、講師である御

三方の雰囲気やキャラクターがそれぞれで、会場はほんわかと和み、その掛け合いに終始笑いに包まれていた。

日常にある、子どものつぶやきをあそび歌にしているという

こともあり、何気ない言葉にメロディーがつくだけで、世界観が生まれ表現の広がりを感じた。その場で出てきた子どもの声に合わせて、歌詞を変えたりすることで、自由な考えが生まれ、歌の世界観が広がっていくのだ。実際に会場の先生達に子ども役になってもらい、その場で先生達のアイデアを元に歌詞を変えて歌うと、良い意味での「なんでもあり」が面白さに変わり、“歌＝考えは無限大なのだ”と感じた。言葉や歌にユーモアを入

れることで、あり得ないことが面白くなる過程を間近に感じることができた。

“子どもが「やってみたい」という気持ちを大切にしたい”と語る島本先生は、そういった自分の思いを相手に認められると“楽しい成長”につながっていくのだと教えて頂いた。私たちも、日々の中に生まれる子どもの「やってみたい」という気持ちや、ふとした言葉を大切に受け止めていきたいと感じた。

(泉ヶ丘幼稚園 松山 瑛美子)



### 第3分科会

## ◆テーマ：育ち合い学び合う関係を育てる教師の役割

◆講師：國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授 神長 美津子 先生

◆会場：港南公会堂

『育ち合い、学び合う関係を育てる 教師の役割』というタイトルの元、研修会は始まった。「育ち合いと学び合いはイコールではないにしても、協同性に繋がるのもの…」との神長先生の話から、改めて協同性の意味を考えるいい機会となった。

たくさんの事例から、各年齢の育ちの話があり、特に面白かったのが、喧嘩の内容を分類した研究の話だった。3歳児は物の

取り合いの喧嘩が多く、4歳児では仲間に入れる、入れないの喧嘩、5歳児ではルールや決まりが公平かどうかという喧嘩が多いとの話だった。神長先生のお話からも、年齢毎に学びがあり、どの年齢でも遊びを重ねていくことで課題が見え、自分の世界を広げることに繋がっていく…ということを再認識した。

他に、4歳児の事例の中で、「たじろぐ4歳児」というワードが出

てきた。人と合わせたり、受け入れるばかりではなく、自己主張がぶつかり合う事を大事にすることで、新しい遊びを生み出していくための関係ができていく事。仲間に入れる、入れない…というところで気持ちが揺れ動く経験が最終的にはみんなで過ごすためには大事だ、という先生の話にとっても納得した。

間違ったり、ぶつかったりすることが学びや気づきに繋がる過程となる中で、やはり保育者の向き合い方がその子の育ちに繋がっていくことを再認識し、日々の保育の中で私たち保育者が、考える視点をたくさん持つことが大事になってくると感じた。

今まさに、育ちの真ただ中にある目の前の子どもたちへの責任を改めて考えさせられる研修会ともなった。

(ゆうゆうのもり幼稚園)

中田 弥生)



## 絵本の散歩道

横浜市幼稚園協会ホームページより



## しろくまのパンツ

作：tupera tupera  
 (亀山達矢 中川敦子)  
 発行：ブロンズ新社

この絵本を見てまず目に付くのが、しろくまが履いているこの赤いパンツ。お話は、まさかのこのパンツをぬがしてから始まります。この時点で子ども達は大笑い!! 大人も思わずクスッと笑ってしまいます。

では、ちょっと恥ずかしいですがパンツをぬがさせてもらってお話を読ませてもらいましょう……!

ストーリーはというと、しろくまさんのパンツがなくなってしまったお話です。

「あのね ほくのパンツが なくなっちゃったんだ」

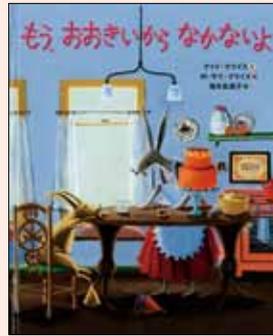
「えー! きょうは どんなパンツを はいていたの?」

「わすれちゃった……」

ねずみさんと一緒にしろくまさんのパンツを探す旅が始まります。中は、しかけ絵本になっていて次々とカラフルなパンツがクイズ形式で登場します。さて、しろくまさんのパンツは見つかるのでしょうか。

最後に読み終わったら、ちゃんとパンツを履かせてあげて下さいね。ちなみに、この赤いパンツをなくしてしまったり破れてしまった場合は82円切手を同封して「パンツ希望」と書いて送ると“替えパンツ”が買えるそうです!

そんな作者の遊び心が感じられる一冊となっているこの絵本。是非お子さんと一緒に笑いながら読んでみて下さい。

もう、おおきいから  
かないよ

文：ケイト・クライス  
 絵：M・サラクライス  
 訳：福本友美子  
 発行：徳間書店

1年に一度だけやってくる特別な日。子どもたちはその日を指折り数えて楽しみにしています。そう、それはお誕生日です。

この絵本に出てくるうさぎくんも、もうすぐ5歳のお誕生日を迎えようとしています。

そして、うさぎくんは

「ぼく、もうおおきくなったから、なくのはやめる。ぼくはもうあかちゃんじゃないからさ」

と、きっぱりと言い お祝いにお誕生会を開くことにしました。呼ぶのはもちろん、おおきくて泣かないお友だち。うさぎくんはりすちゃんやうまさんを誘いました。ところが、泣いちゃう時があるから行けないと、断られてしまうのです。しょんぼりして帰ってきたうさぎくんがママにその事を話すと、なんとママもお誕生会に出られないと言うのです。

さて、うさぎくんの5歳のお誕生日会はどうなってしまうのでしょうか……?

このお話のうさぎくんの様に、おおきくなることに喜びを感じている子どもたち。

絵本の中でも動物たちが泣く場面で共感したり、声を出して笑ったり。

「お母さんもテレビを見て泣いてたよー」

「先生もなくの?」

と、子どもたちだけではなく大人も同じ様に泣くこともあるんだと知って、ちょっと安心した様子でしたよ。

おおきくなっても、泣きたい時はあるし、泣いてもいいんだと感じることが出来る素敵な1冊です。

## 編集後記

大雨が続き、いきなり電が降るような異常気象が続くこの頃、やがて新制度にかわり、私たち幼稚園の取ろうとする道が決まります。今はそわそわ落ち着かず、なんだかすっきりせず、なんとなく追い立てられている中で判断を迫られているように感じています。子どもたちの幸せを保護者の方々と一緒に考えてきた道はどこにつながっているのか、つなげようとしている外からの力は本当に味方なのか、心配ばかりを感じる未来は、仲間であみ歩みを確かめて進むしかありません。

(広報部 浅沼 郁子)